

戸田康之さん『視線』（6月21日配信）

こんにちは。戸田です。

今日お話しするのは、ろう児の視線の持つ力についてお話しします。

現在、ろう学校の幼稚部に勤務しています。新型コロナウイルスの流行で、みんなマスクを着用しています。給食の時、以前は机を円形にしみんなでおしゃべりをしながら食べていました。それが今はコロナの影響で飛沫を考えるとできません。一人ひとりを離し、全員が前を見て食べています。そういった変化もしかたがないですね。聴者もろう学校も同じですね。

教員から生徒に対し、今はコロナの影響で話しながら食べることは出来ない、飛沫からの感染リスクも考え、席も離す。おしゃべりをせず黙食をするようにと説明しました。生徒はしっかりと理解してくれました。実際、給食時、席を離し、今までとは打って変わって静かに食べています。教員はというと、生徒たちの前方で教員同士が向き合うように座って食べます。生徒には横顔を見せている状態です。食べていると生徒側から視線を感じます。その視線をずっと感じるわけです。生徒側を向くと視線が合った生徒が、嫌いなものを半分に減らしたいと言ってきました。以前から、嫌いなものを無理して食べるのではなく、申告することで量を減らすことが出来ます。視線が合ったときにそれを言ってきました。確かに黙食するようにと説明しましたが、教員を呼ぶことを禁止してはいません。教員は呼んでも構わないのですが、事前の説明を真に受け手話をする事すべてがダメだと誤解しました。そのため、手を振ることもできず、もちろんお互いがろう者なので発声も意味がなく、でも教員を呼びたい、嫌いなものを減らしてもらいたい、でも呼ぶ手段がない。生徒は必死に考え、教員に視線を送り続ける手段に出ました。それを私がずっと感じていたわけです。そして、私が振り向いたタイミングで話しかけてきたのです。手も振れない、そんな状況で考え視線に振り向いてほしい思いを込め、振り向かせる方法を考えたのです。生徒の視線の持つ力ってすごいですよね。視線を合わせてコミュニケーションをとることがしっかりと身に付いた、眼の子どもですね。さすがです!!